

# 子への〃注意〃ひと工夫

在宅勤務が増えて外出が減り、親子で過ごす時間が増えたご家庭もあるかもしれません。でも一方で、ついつい我が子への叱責や注意が多くなる……。そんな親御さんいませんか？ もちろん、必要な時には叱るべきです。ただ、過剰な叱責が続き、子どもの主体性や自己肯定感が低下する事態は避けたいものです。

喉元まで「ダメ！」が出なかったら、まず一呼吸して、「別表現」の注意を考えてみましょう（表参照）。

①【ルールの確認】「片付けられないダメな子ね！」ではなく、「食器片づけは我が家のルールです」と伝えてみましょう。子どもの人格否定ではなく規範の確認を促すのです（表中①）。



<45>

埼玉県立大学准教授 森 正樹

(表) ”注意の仕方”ひと工夫

ことばかけの例	キーワード
1 「～するのがルールだよね」	ルールや約束の確認
2 「～しちゃう。それとも、ちゃんと…する？」	自己決定の促し
3 「あれ？」 「こんな時どうする？」	気付きと軌道修正のチャンス
4 「～できたのは偉い。…もしようね！」	肯定的側面への着目
5 「この前～格好良かったよ。じゃあ…も」	成功体験の話題
6 (Aするのではなく) 「Bしましょう」	してほしいことへの焦点化
7 「そっぢゃなくて、このお仕事をお願い」	具体的な役割の提案
8 「～してくれると嬉しい」「～されると困る」	話し手の心情・期待の言語化
9 「今は～する時間」「ほら周りを見て」	場面・状況・文脈の確認
10 「今～しておけば、このあと…だよ」	プランや見通し形成

森正樹(2019) 通常学級の実践から学ぶ 特別支援のヒント52 『指導と評価』第65巻6月号 50頁～51頁(日本図書文化協会)より抜粋・要約・再構成

②【自己決定の促し】「〇〇しちゃう？ それとも□□する？」と、子どもに問いかけてみます。心理学では自己決定した活動では動機付け(やる気)が高まる(表中②)が知られています(表中②)。

③【軌道修正のチャンス】「ん？」「こんな時どうする？」と問いかけ、振る舞いを改めることができましたらっ

## 「良いところ探し」の視点大切に

かり褒めます。子どもの間違いは、大人の関与の在りようで失敗体験にも成功体験にもなります(表中③)。

④【肯定的側面への着目】「また、やりっぱなし！」と責めずに、「自分から掃除したのはエライ。じゃあ道具の片づけもね」と、本人なりに頑張ったことに気付き認めていきましよう。そのためには、親が我が子の「良いところ探し」の名人になることです(表中④)。

⑤「この前、〇〇できて格好良かったよ。またお願いね」と、過去の【成功体験を話題】にして期待を伝えてみましょう。子どもの自尊心の芽を育むことができます(表中⑤)。

我が子への注意に唯一の正解がある訳ではありません。ただ確かなことは、「よい注意」とは、子どもが自立的・自律的に考えて行動する力を育み、自らの大切さと可能性に目を向ける貴重な体験となることです。だからこそ、私たち大人は、子どもたちと交わす言葉をこれからも大切にしていきたいものです。